



昨日6月28日号にてお伝えした欧州、ロシア、インドにおける大規模なサイバー攻撃の混乱が続いております。本号では、各地でのサイバー攻撃による影響の続報をお伝えいたします。

1. 各地でサイバー攻撃

現地時間の6月27日、欧州を中心に暗号化型ランサムウェア(身代金要求型ウィルス)「PETYA」による大規模サイバー攻撃が確認されており、海運大手A・P・モラー・マースク社が運営している世界各地の76のAPMターミナルのシステムに支障が出ていると報じられています。マースク社によると、「世界各地のAPMターミナルに影響が出ており、27日、28日、29日に荷役された貨物に影響が出る可能性がある」と発表していますが、実際の物流への影響がどの程度及ぶかについて調査中とのことです。

2. 各地で確認されている物流への影響

インド最大のコンテナターミナルであるJNPT(Jawaharlal Nehru Port Terminal)のAPMターミナルはサイバー攻撃により現地時間27日夜から現在に至るまでシステムが停止しているため、手でオペレーションを行っている状況です。JNPTは近年急成長を遂げている主要ターミナルであり、インドのコンテナ貨物の約半数がJNPTを通るため、JNPTおよびインド政府は今回のサイバー攻撃を重く受け止め、原因究明および対策を模索しております。

米ロサンゼルスAPMターミナルでは27日と28日に船の出入港が予定されていなかったため、影響は少なかったものの、現在もターミナルは閉鎖されており、システム復旧の見通しは立っていません。

マースク社は27日より船手配の新規予約を受付できない状況にあり、また同社の貨物追跡システムもダウンしていることからこれまでの貨物の情報を確認できない状況です。

3. 今後の見通し

マースク社本社および各地のターミナルはシステムの復旧をマイクロソフト社等に依頼していますが、復旧の目途は立っておりません。マースク社は既に輸送中の貨物は予定通りの運航および引き渡しを行うと呼び掛けておりますが、船舶やコンテナ荷役の遅延が予想されます。

各地主要ターミナルでは、システム復旧のための緊急対策のみならず、今回のようなサイバー攻撃に備えた対策が急務となると言えます。

引き続き、マースク社が調査中の輸送への影響について最新情報が入り次第、続報いたします。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html